

第5章

東部地域を取り巻く状況

1 地勢

本市を南北に流れる阿武隈川の東側に位置する地域は、起伏の多い阿武隈山系の丘陵地帯であり、須賀川市、本宮市、田村市、三春町、小野町、平田村の3市2町1村に接しています。

また、郡山駅東口周辺の地域は、阿武隈川まで平坦な土地が広がっており、商業・工業施設と住宅が共生した東部地域の玄関口となっています。

両地域は、磐越自動車道の郡山東インターチェンジをはじめ、東北新幹線や東北本線、磐越東線、水郡線などを有するとともに、福島空港とのアクセスが容易であるなど、高速交通網の要衝である本市の中でも、地理的優位性の高い地域です。



阿武隈川（西田町）

2 歩み

本地域は、本市発展の礎となった郡山駅東口周辺や中央工業団地等の企業の集積をはじめ、昭和40年の合併などにより、東北地方をリードする中核市としての伸展を支えてきました。

阿武隈川以東の丘陵地帯では、葉たばこや養蚕、畜産が盛んでしたが、起伏の多い地形や水利条件の乏しさなどを解消するため、昭和55年から「国営郡山東部地区総合農地開発事業」が、その後「郡山地域農用地総合整備事業」が実施され、農業基盤の整備が進められました。



福島空港

また、一方では、平成5年の福島空港の開港や平成9年の磐越自動車道の全線開通をはじめ、東部ニュータウン、市立美術館、(仮称)東部森林公園や大安場史跡公園等の都市基盤整備が進められるなど、地域発展の可能性が高まりつつあります。

3 人口等

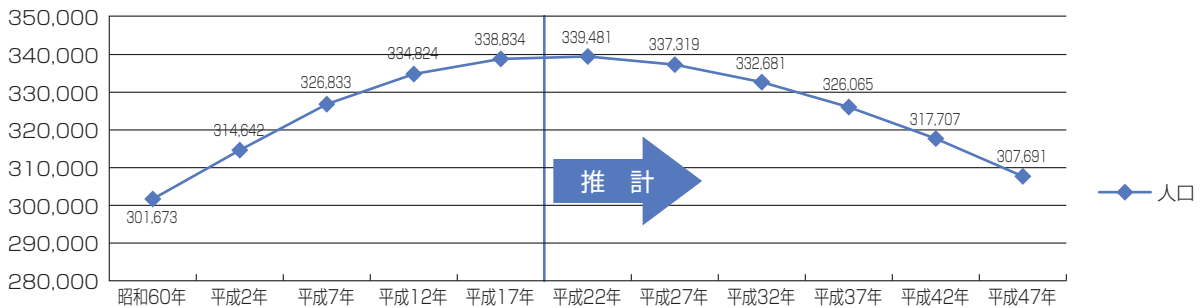
1 人口の推移

本市の人口は、大正13年の市制施行からこれまでは増加の一途にあり、特に、昭和40年から60年までに実施された国勢調査（5年毎に実施）の推移では、毎回約5～9%の増加と非常に高い伸びを示し、昭和60年には30万人を突破しました。

このような中、本地域では、昭和60年以降、宅地開発等が進められている郡山駅東口周辺や東部ニュータウンなど、人口が増加している地区がある一方、阿武隈川以東の旧郡山地区や田村、西田、中田地区においては、人口減少が進んでいます。これは、少子高齢化や若者の流出等によるものであり、今後、高齢者世帯や高齢者の一人暮らしの増加、農業の後継者不足、地域の産業やコミュニティ（※1）、さらには、公共交通の維持などが大きな課題となってくることが予想されます。

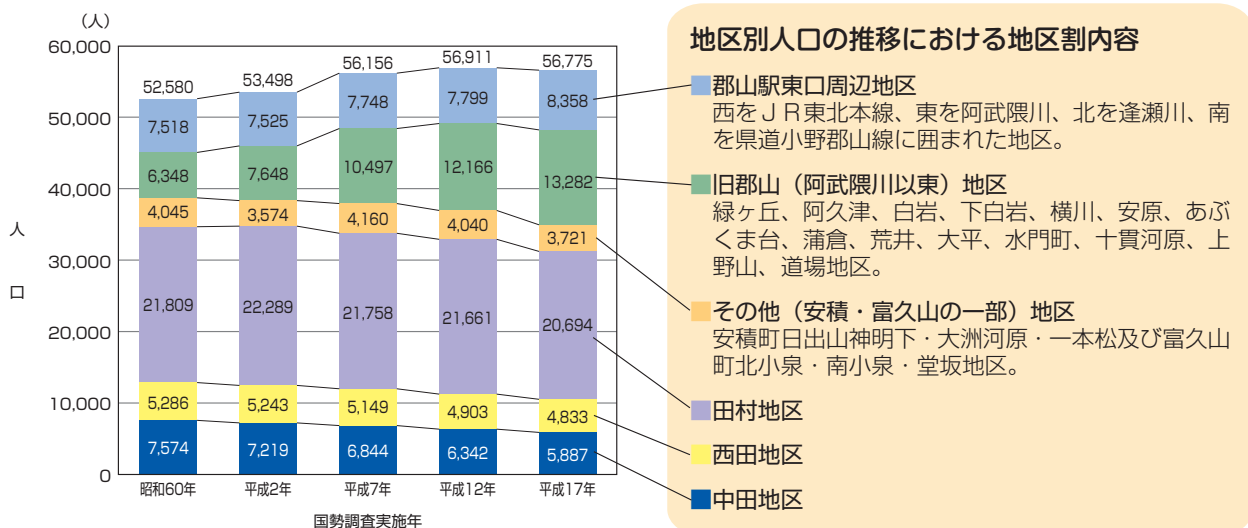
国立社会保障・人口問題研究所（※2）（平成20年12月推計）によると、今後、本市全体の人口が、平成22年をピークに減少の傾向となり、平成47年にはピーク時の約9.4%が減少すると推計されていることから、本地域における人口減少の傾向は、さらに大きくなっていくことが予想されます。

郡山市の人口の推移



注) (※2) 国立社会保障・人口問題研究所 (平成20年12月推計)

東部地域の人口の推移



地区別人口の推移における地区割内容

- 郡山駅東口周辺地区
西をJR東北本線、東を阿武隈川、北を逢瀬川、南を県道小野郡山線に囲まれた地区。
- 旧郡山（阿武隈川以東）地区
緑ヶ丘、阿久津、白岩、下白岩、横川、安原、あぶくま台、蒲倉、荒井、大平、水門町、十貫河原、上野山、道場地区。
- その他（安積・富久山の一部）地区
安積町日出山神明下・大洲河原・一本松及び富久山町北小泉・南小泉・堂坂地区。
- 田村地区
- 西田地区
- 中田地区

注) 「郡山駅東口周辺地区」、「旧郡山（阿武隈川以東）地区」、「その他（安積・富久山の一部）地区」別の人口については、各年の国勢調査の結果を本市独自で集計した速報値となっています。

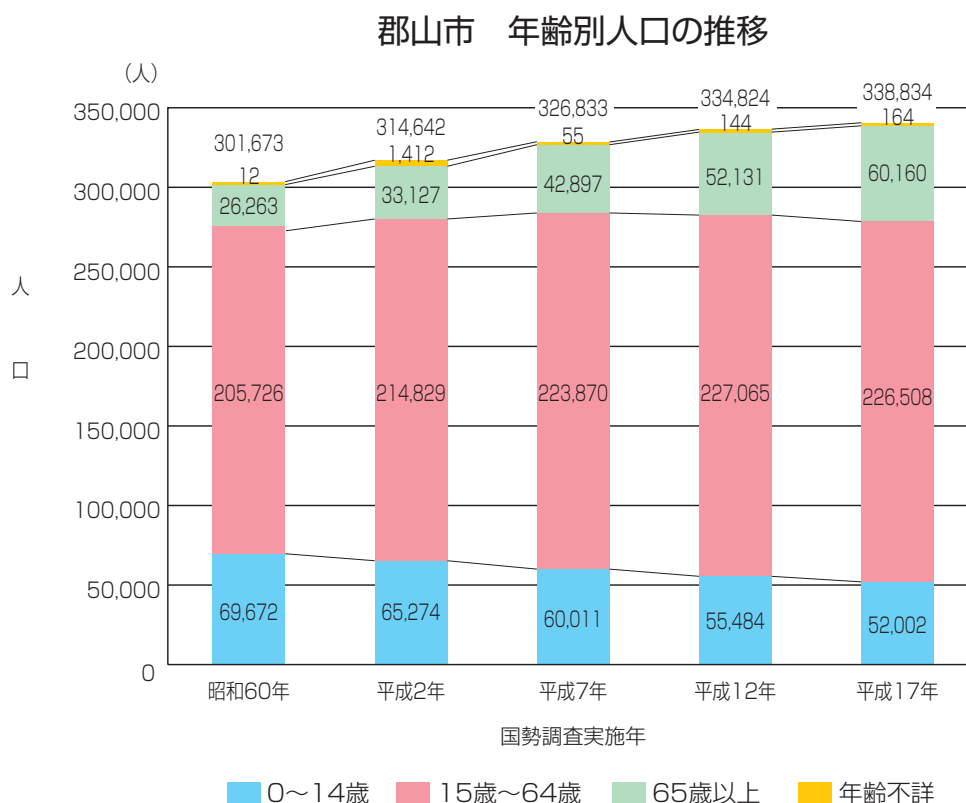
2 年齢別人口の推移

本市全体の『年齢別人口構成比』については、年少人口、生産年齢人口（※3）とも年々減少傾向にあり、平成17年の国勢調査では、年少人口は平成12年と比較して3,482人（約△6.3%）減少するなど、少子化が進んでいます。

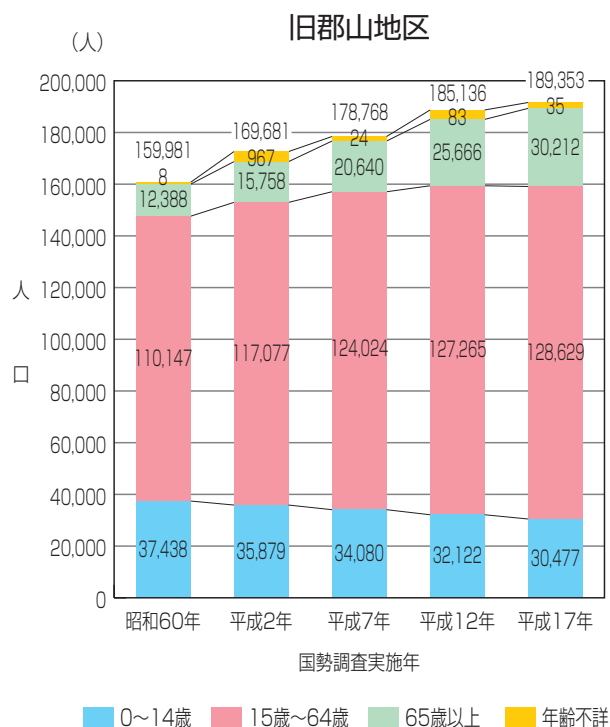
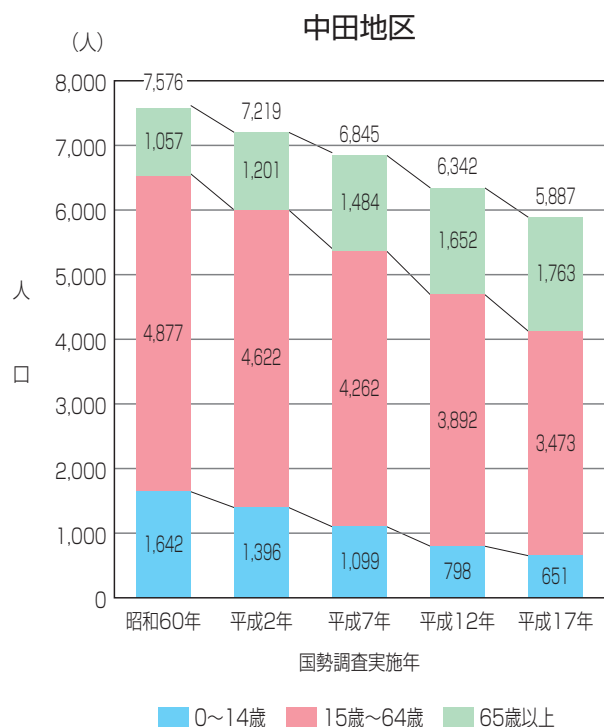
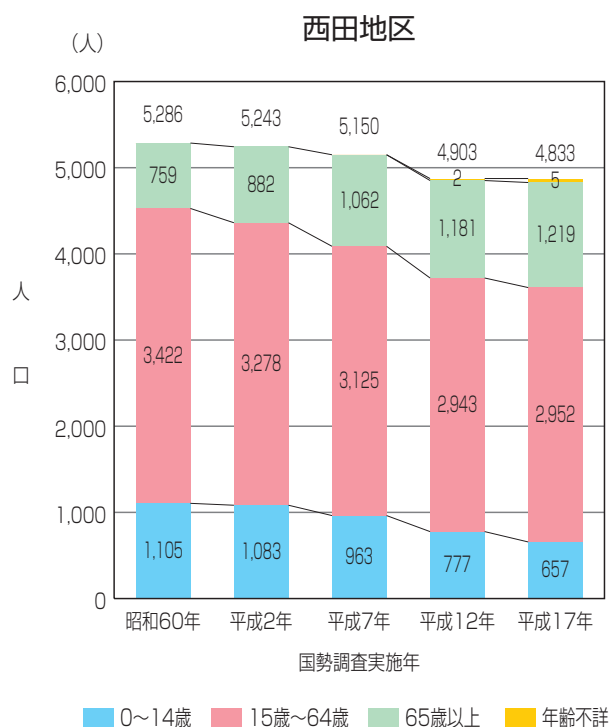
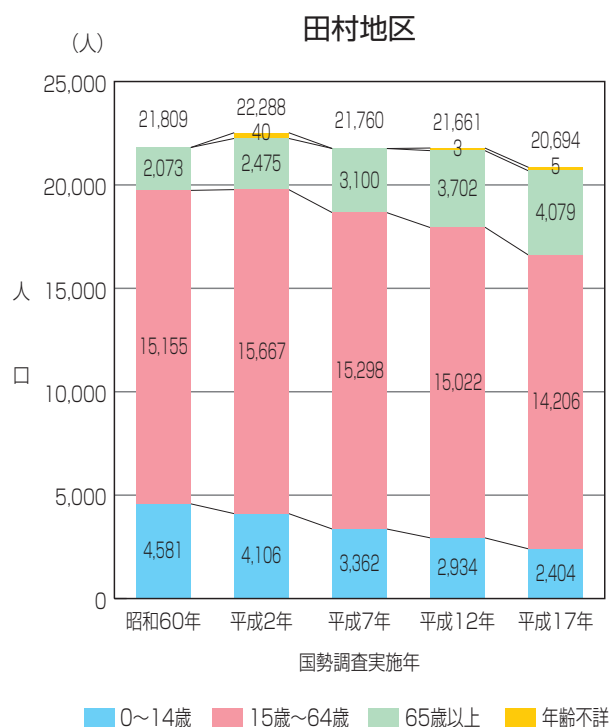
このような中、旧郡山地区においても少子高齢化の傾向は見られますが、生産年齢人口は増加傾向にあります。一方、田村、西田、中田地区は、年少人口、生産年齢人口とも年々減少傾向にあり、平成7年の国勢調査では、西田地区や中田地区において、さらに、平成12年の国勢調査では田村地区において、老年人口が年少人口を上回る結果となりました。

郡山市の年齢別人口構成比

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
人口	301,673人	314,642人	326,833人	334,824人	338,834人
年少人口 (0～14歳)	69,672人	65,274人	60,011人	55,484人	52,002人
生産年齢人口 (15～64歳)	205,726人	214,829人	223,870人	227,065人	226,508人
老年人口 (65歳以上)	26,263人	33,127人	42,897人	52,131人	60,160人
年齢不詳	12人	1,412人	55人	144人	164人



各地区の年齢別人口の推移



注) 「旧郡山地区 年齢別人口の推移」については、字ごとの年齢別人口が不明なため、「郡山駅東口周辺地区」及び「旧郡山(阿武隈川以东)地区」等の人口ではなく、旧郡山地区全体の数値を掲載しています。

3 産業別就業人口

本市の就業状況をみると、平成12年の165,517人をピークに減少傾向にあります。

また、産業別の就業人口をみると、第1次産業、第2次産業ともに減少傾向にあります。特に、平成17年の国勢調査によれば、田村、西田、中田地区においては、第1次産業就業者が昭和60年と比較して半数以下と大きく減少する結果となりました。一方、第3次産業は年々増加傾向にあり、産業構造の変化が進んでいます。



第1次産業：農業、林業、漁業

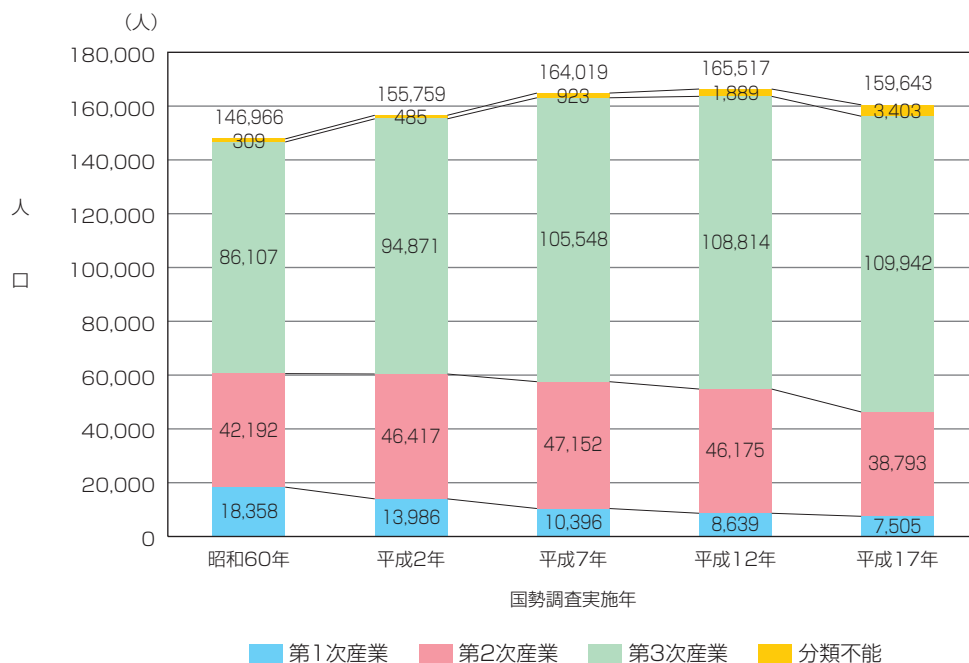
第2次産業：鉱業、建設業、製造業

第3次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業、飲食店、金融・保険業、不動産業、サービス業、公務ほか

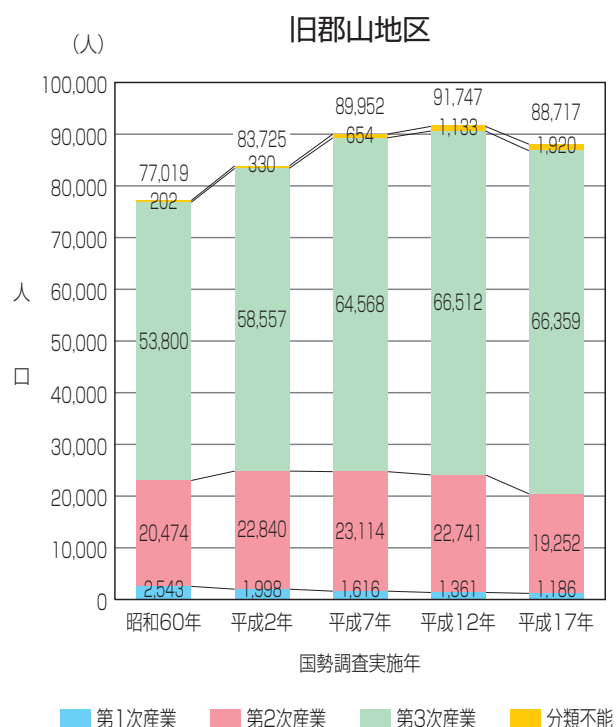
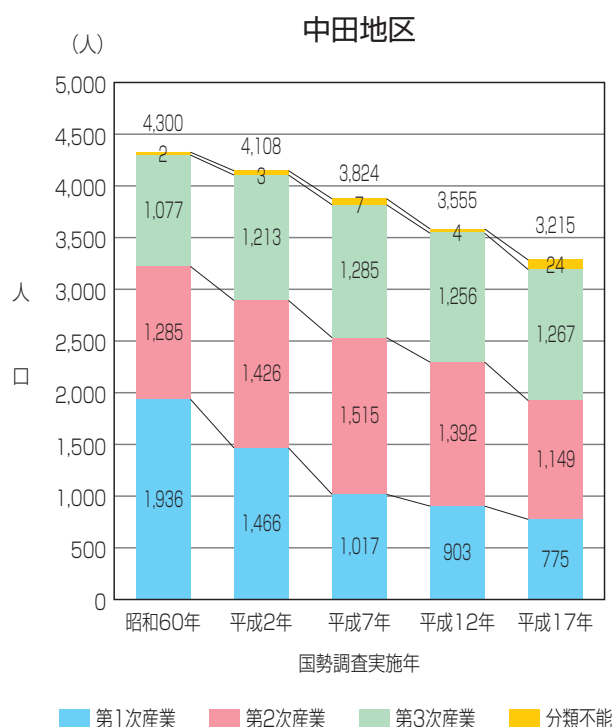
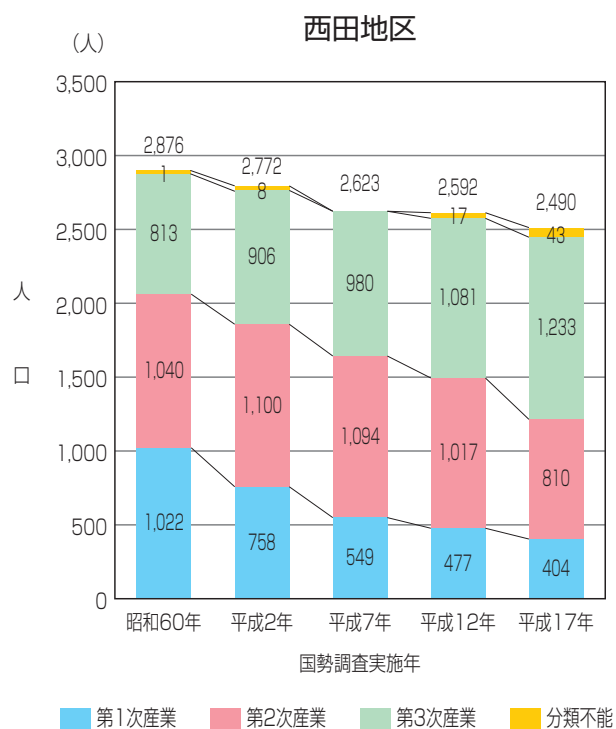
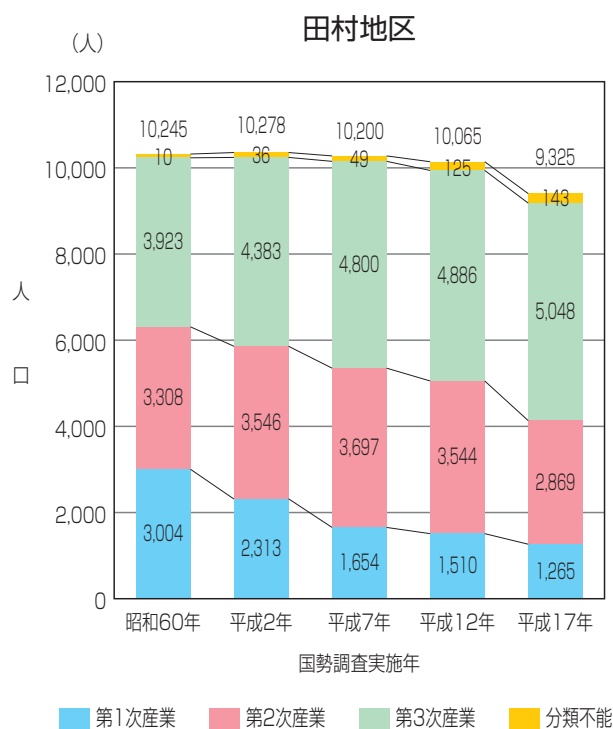
郡山市の産業別就業人口の推移

区 分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総 数	146,966人	155,759人	164,019人	165,517人	159,643人
第1次産業	18,358人	13,986人	10,396人	8,639人	7,505人
第2次産業	42,192人	46,417人	47,152人	46,175人	38,793人
第3次産業	86,107人	94,871人	105,548人	108,814人	109,942人
分類不能	309人	485人	923人	1,889人	3,403人

郡山市 産業別就業人口の推移



各地区の産業別就業人口の推移



注) 「旧郡山地区 年齢別人口の推移」については、字ごとの年齢別人口が不明なため、「郡山駅東口周辺地区」及び「旧郡山(阿武隈川以東)地区」等の人口ではなく、旧郡山地区全体の数値を掲載しています。

4 魅力

本地域は、豊かな自然に加え、伝統文化や歴史的資源、自然や貴重な文化財を生かした公園、地域特産品など、さまざまな地域資源が豊富な阿武隈川以東の地域と、郡山駅東口周辺をはじめとした都市空間との調和が図られた地域です。

また、住民の自主的・主体的取り組みとして、地産地消（※4）の推進や販路拡大を目的とした直売所の設置、地域づくりのための地域振興協議会や観光協会の立上げなど、地域活動等も盛んに行われているとともに、大学をはじめとする高等教育機関が数多くあり、人材の育成など、地域づくりを進めていくうえで、大きな力となっています。

さらに、郡山東インターチェンジや福島空港とのアクセスの容易さから、本市の高速交通網の要衝としての一翼を担う重要な地域であり、さらなる経済発展の可能性を秘めています。

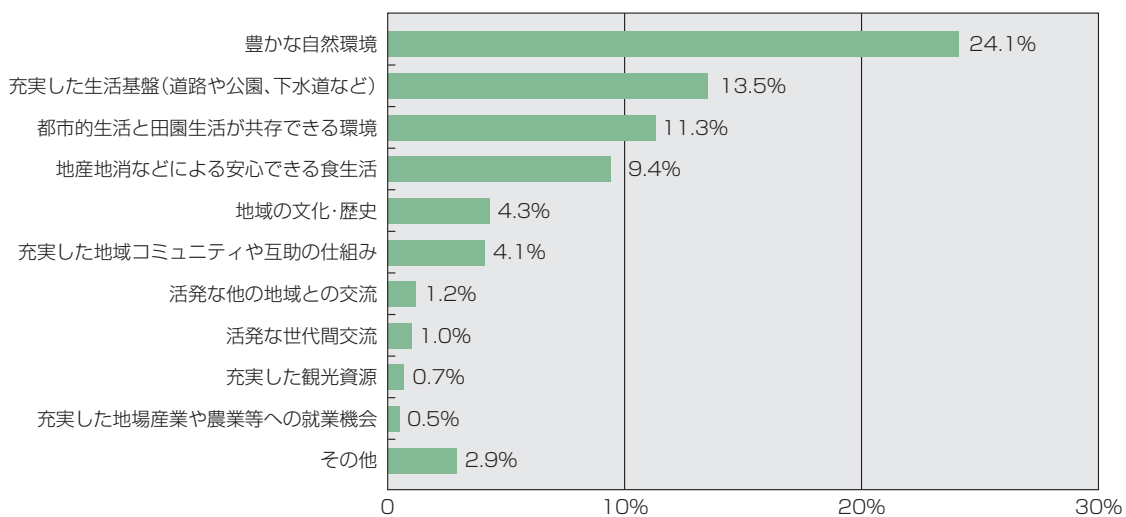


宇津峰（田村町）

市民アンケート結果

Q 身近な地域で誇りに思うもの ※東部地域在住者抜粋

本地域の特性でもある「豊かな自然環境」（24.1%）が最も多い結果となりました。



市民アンケートの概要

実施期間：平成20年7月24日～8月11日

調査対象：15歳以上の市民2,000名 [東部地域1,000名、その他市域1,000名]

※地域、性別、年代を考慮した無作為抽出による

回答数：605名（回答率：30.25%）

東部地域は、数多くの地域資源を有しています。 地区ごとに、いくつかをご紹介します。

○田村地区の魅力

田村地区は、高等教育機関をはじめ、産業を支える中央工業団地やインキュベーション（※5）施設などの工業生産・起業拠点を有するとともに、東北最大の前方後方墳である大安場古墳を中心とした大安場史跡公園が整備され、さらには、安土桃山時代に築城された守山城の跡や、江戸時代に徳川御三家の一つ水戸藩の支藩として繁栄した守山藩に関わる歴史・文化などが継承されています。

また、森林資源を生かした（仮称）東部森林公園の整備も進んでいます。



大安場史跡公園



田村神社



インキュベーションセンター（※6）



○西田地区の魅力

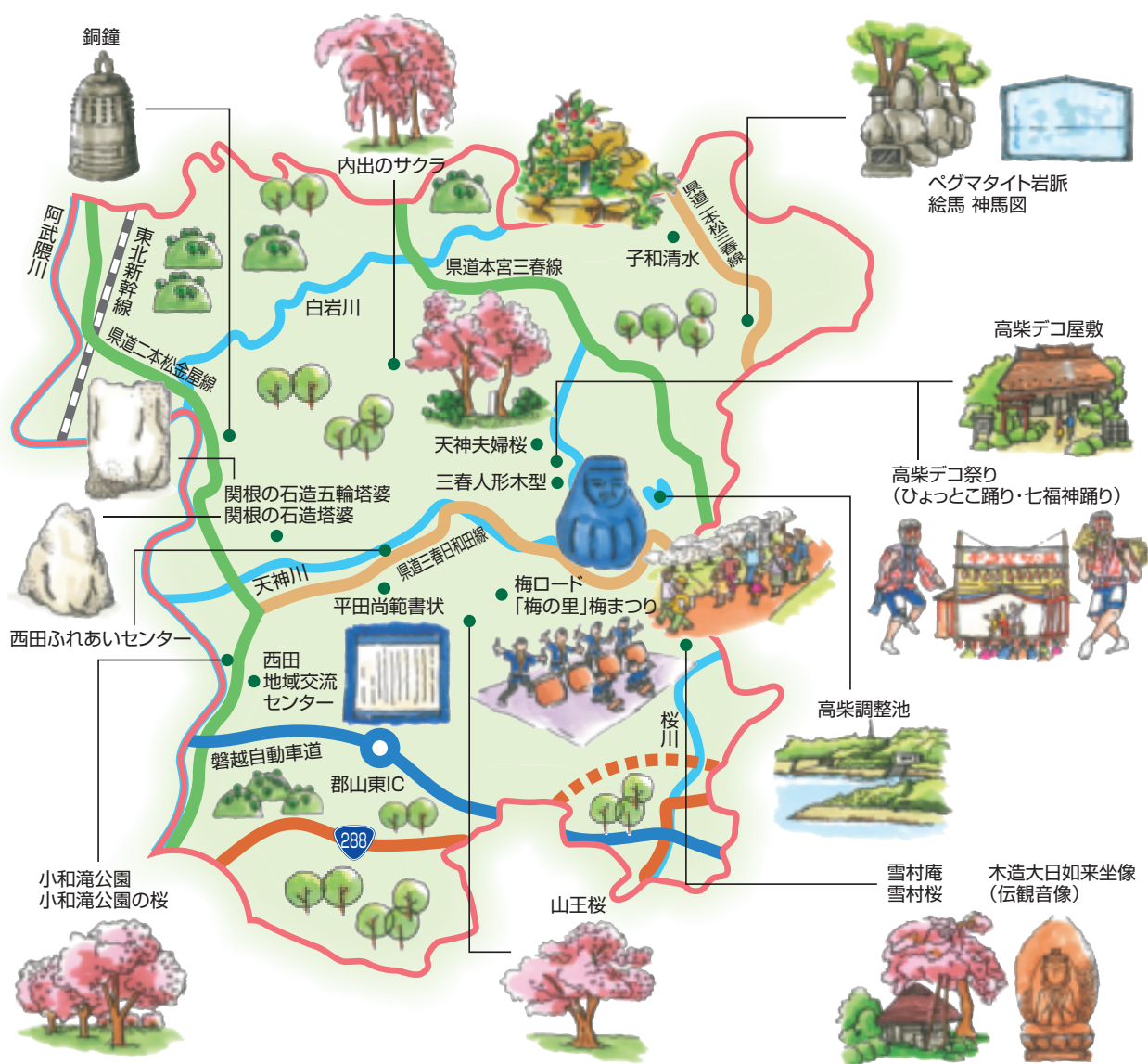
西田地区は、高柴デコ屋敷やペグマタイト岩脈、室町時代の水墨画家雪村が晩年を過ごしたと言われる雪村庵などを有し、観光地としても有名です。また、内出のサクラや天神夫婦桜などの桜や、地域特産の梅を生かした地域づくりが進められています。



雪村庵



高柴デコ祭り



○中田地区の魅力

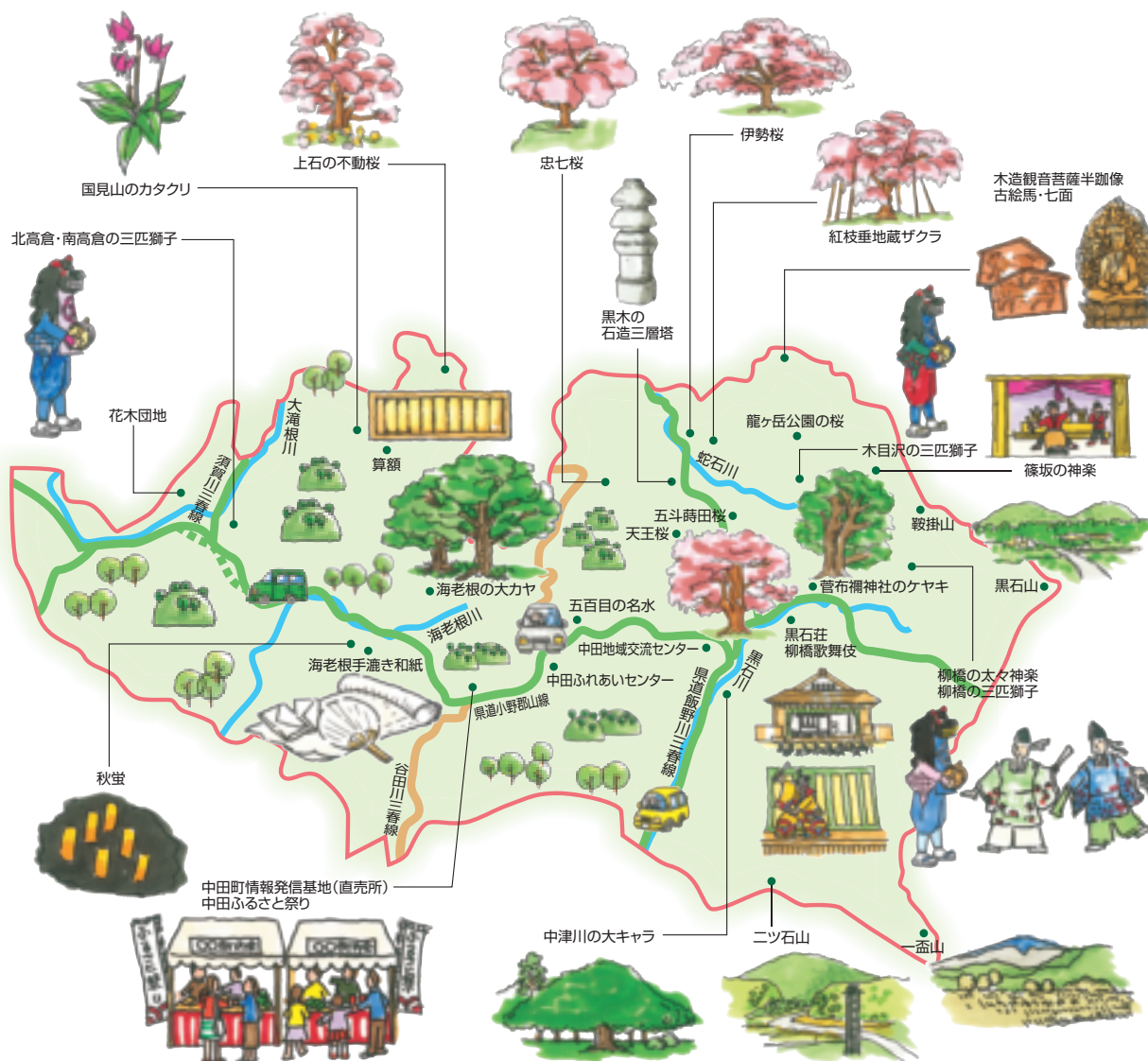
中田地区は、江戸幕府の天領（※7）であった地区もあり、貴重な文化である柳橋歌舞伎や獅子舞などの民俗芸能が多く継承されています。また、紅枝垂地蔵ザクラや上石の不動桜など、桜を生かした地域づくりや小泉八雲の民話にも登場するおしどり物語、海老根手漉き和紙等を生かした地域づくりや農業資源を生かした都市と農村との交流も進められています。



紅枝垂地蔵ザクラ



秋 螢



○旧郡山地区（阿武隈川以東）の魅力

旧郡山地区（阿武隈川以東）は、郡山駅を含む中心市街地から近く、快適な日常生活を支える居住空間と豊かな自然や特産品などのさまざまな地域資源を有しています。また、文化施設として市立美術館もあり芸術鑑賞の機会にも恵まれた地区です。



市立美術館（安原町）

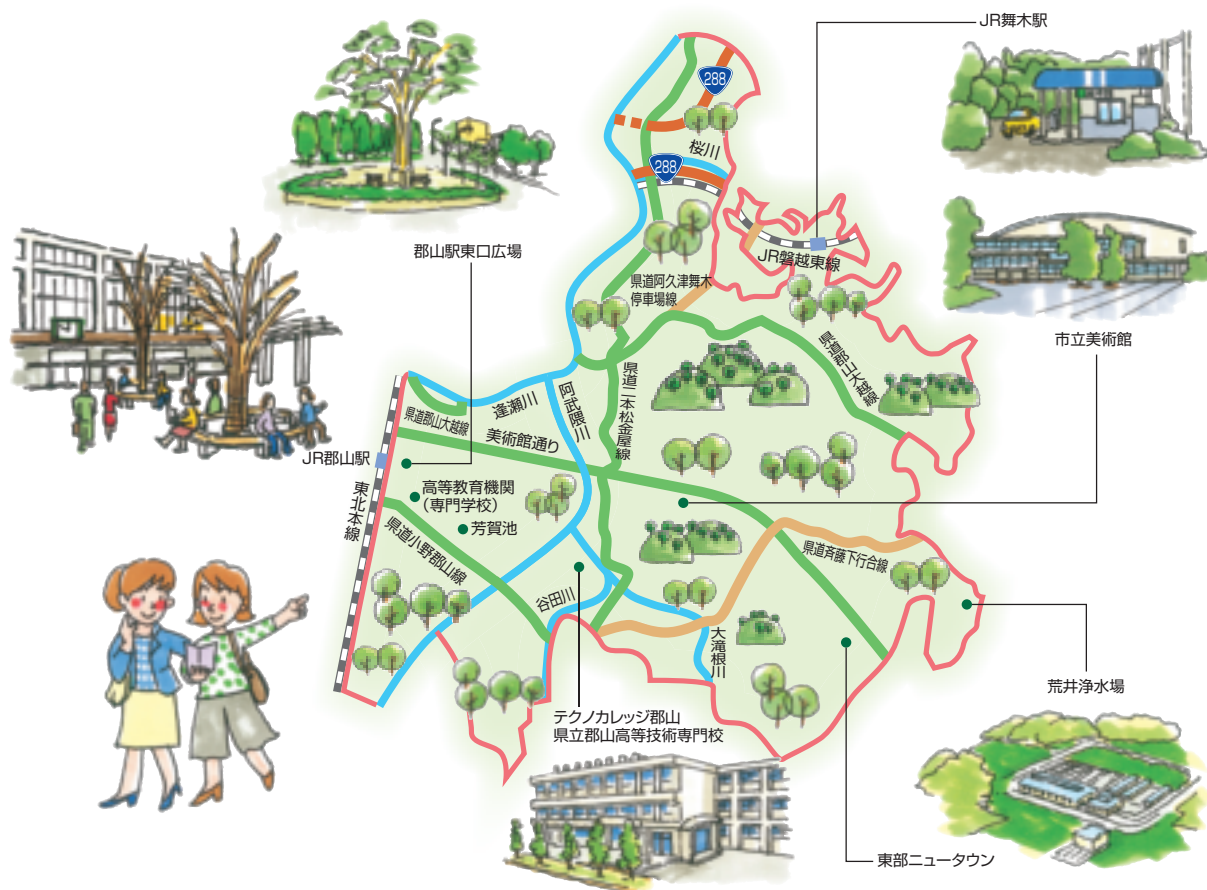
○郡山駅東口周辺地区の魅力

郡山駅東口周辺地区は、明治後期、沼上発電所（※8）からの送電開始以降、多くの工場が集積し、本市発展の一翼を担っています。また、商業施設や遊戯施設、高等教育機関の立地が進められており、賑わいと活力の創出が図られつつあります。さらに、その周辺には、住宅地が広がっています。

今後、本地域の玄関口として、駅東口広場の整備や各種都市機能の集積などにより、本地域の活性化の中心的な地域、さらには、本市の発展を支える地域となることが期待されます。



沼上発電所



5 現状と課題

本計画の策定段階において実施した「市民アンケート調査」の結果をもとに「地区懇談会」での意見等を踏まえ、本地域の現状や課題について分析しました。

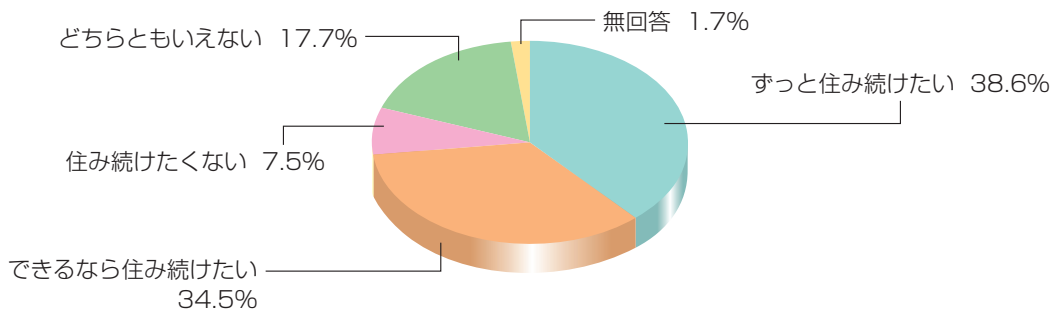
Q1 今後も今の居住地に住み続けたいか（東部地域在住者抜粋）

全体の調査結果では、「ずっと住み続けたい」（38.6%）が最も多く、「できるなら住み続けたい」（34.5%）と合わせると、7割を超える地域住民が住み続けたいと回答しています。

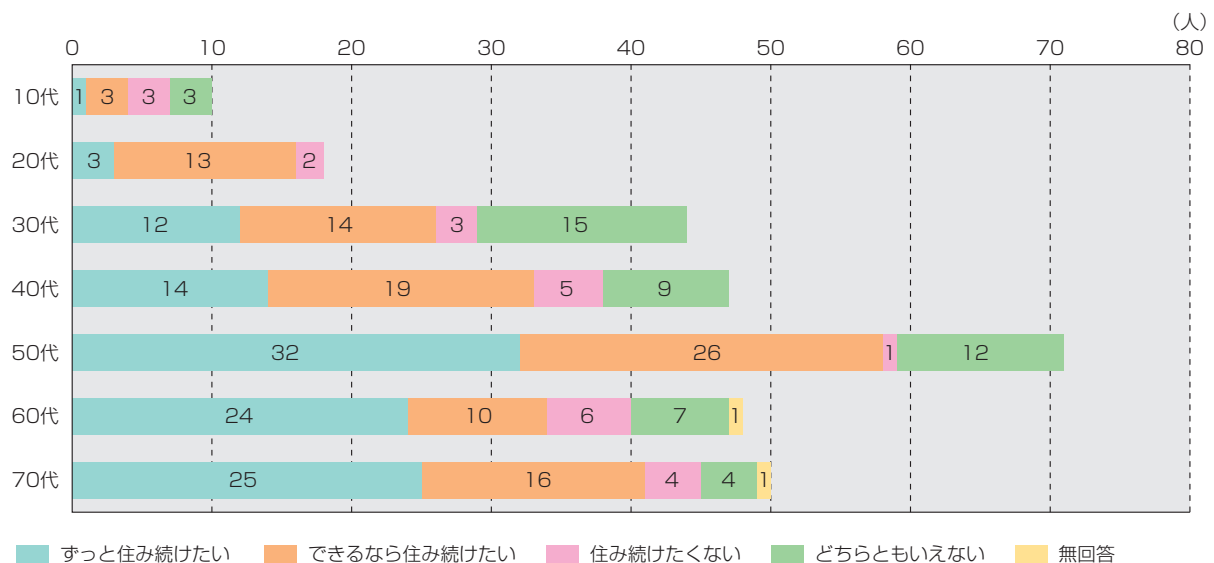
年齢別にみると、20代から70代以上までは、全体と概ね同じ結果となっていますが、10代については、「ずっと住み続けたい」と「できるなら住み続けたい」を合わせて、半数以下と、全体より少ない結果となりました。

今後、さらに、本地域の持つ豊かな自然やさまざまな地域資源を生かした、子どもから高齢者まで、ふるさとへの愛着や郷土愛の持てる地域づくりを進めていくことが重要です。

《全体（東部地域在住者）》



《年齢層別の回答数》

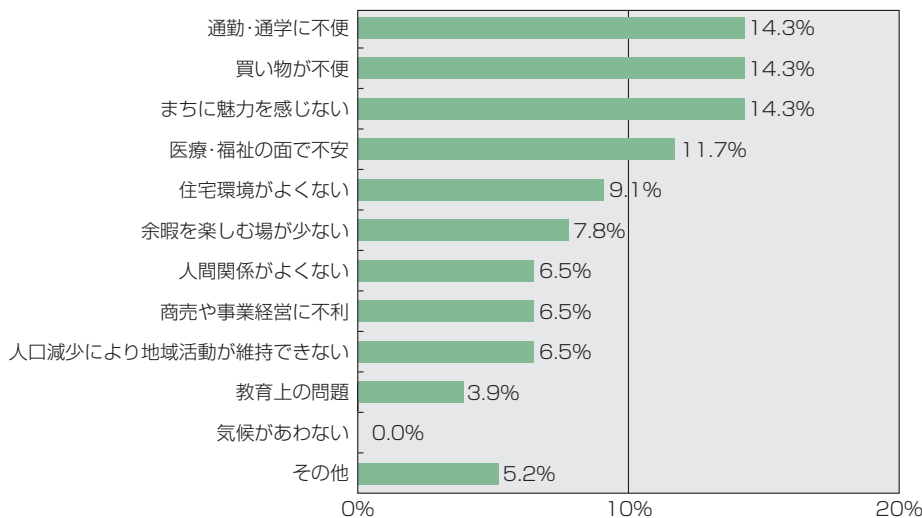


Q2 住み続けたくない理由（東部地域在住者抜粋）

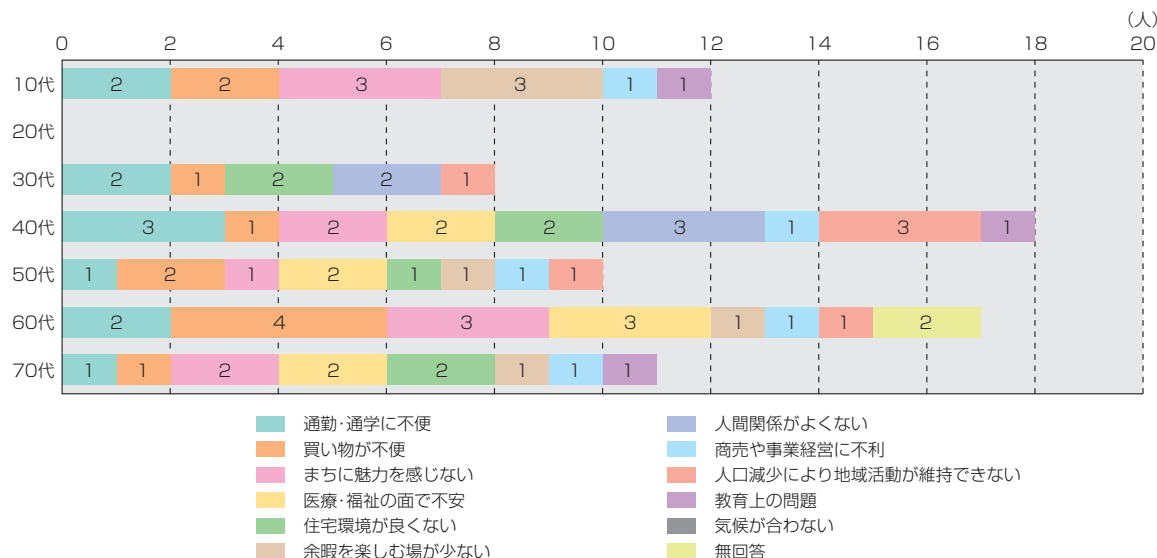
全体の調査結果では、「通勤・通学に不便」（14.3%）、「買い物が不便」（14.3%）、「まちに魅力を感じない」（14.3%）が最も多く、次に「医療・福祉の面で不安」（11.7%）、「住宅環境がよくない」（9.1%）の順となっています。

今後、少子高齢・人口減少社会が進展する中、「住み続けたい」と思える地域づくりを進めるためには、安全で快適な道路や橋りょうの整備、利用しやすい公共交通体系の構築、さらには、商業施設や公共公益施設、医療福祉施設の充実など、ユニバーサルデザイン（※9）の考え方を取り入れた、すべての人が暮らしやすい生活環境の向上を図るとともに、住民が自ら行う地域づくりや課題解決への取り組み、地域活動の推進役となる人材育成への支援などを進める必要があります。

《全体（東部地域在住者）》



《年齢層別の回答数》

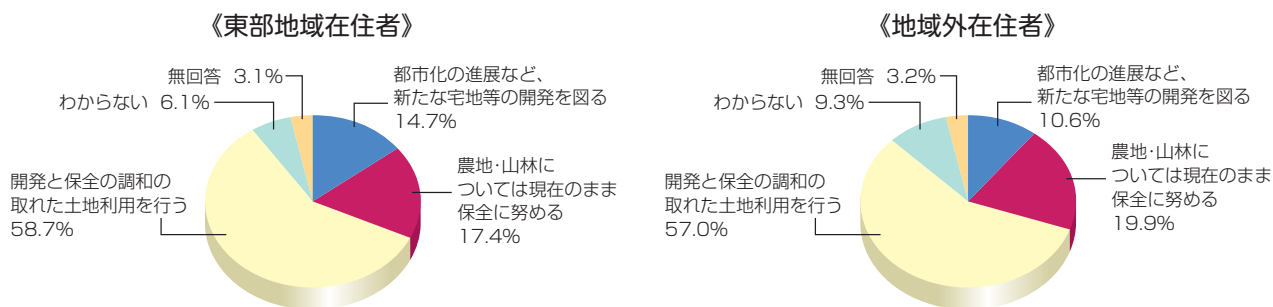


注）Q2は複数回答可としているため、Q2の「年齢層別の回答数」の合計と、Q1の「住み続けたくない」の「年齢層別の回答数」の合計は等しくなりません。

Q3 阿武隈川以東の東部地域の土地利用をどうすべきか

東部地域在住者の回答では、「開発と保全の調和の取れた土地利用を行う」(58.7%)が最も多く、次に「農地・山林については現在のまま保全に努める」(17.4%)の順となっています。地域外在住者も概ね同じ結果となっています。

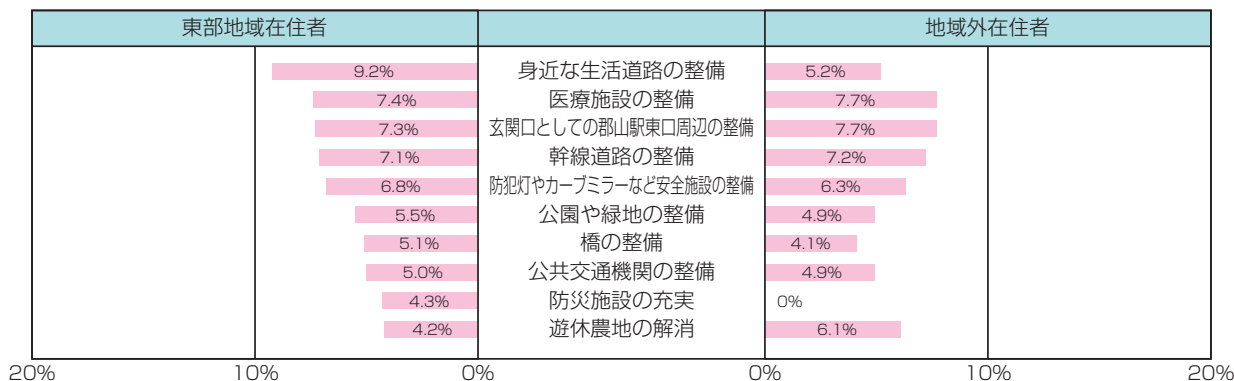
今後の土地利用においては、地域の財産や誇りとなっている豊かな自然や貴重な文化財等を守りながら、自然環境と調和した都市基盤の整備を進めるなど、「開発と保全」を基本とした地域づくりを進める必要があります。



Q4 阿武隈川以東の東部地域の地域活性化のために優先すべきこと ※全26項目中上位10項目

東部地域在住者の回答では、「身近な生活道路の整備」(9.2%)が最も多く、次に「医療施設の整備」(7.4%)、「玄関口としての郡山駅東口周辺の整備」(7.3%)の順となっています。地域外在住者では、「医療施設の整備」や「玄関口としての郡山駅東口周辺の整備」が最も多い結果となっています。

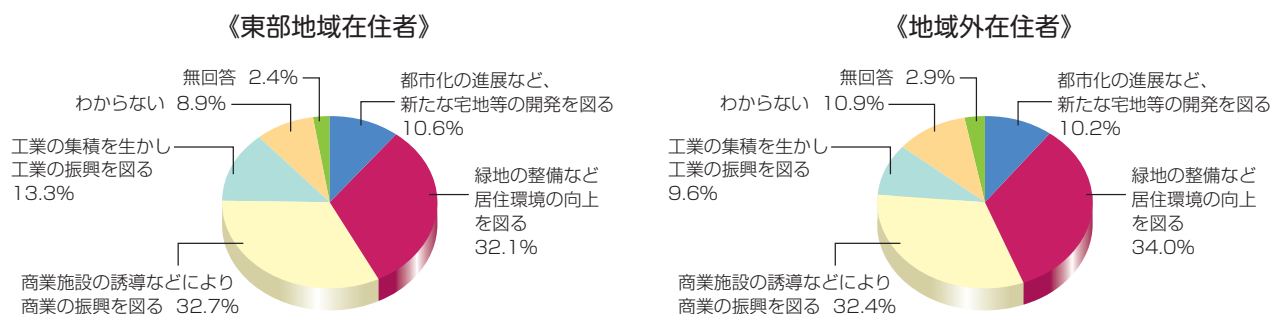
本地域の活性化を図るためには、道路や橋りょう、安全施設、公園、さらには、医療施設などといった都市基盤の整備の推進が求められています。



Q5 郡山駅東口周辺地域の土地利用をどうすべきか

東部地域在住者の回答では、「商業施設の誘導などにより商業の振興を図る」(32.7%)が最も多く、次に「緑地の整備など居住環境の向上を図る」(32.1%)の順となっています。地域外在住者も概ね同じ結果となっています。

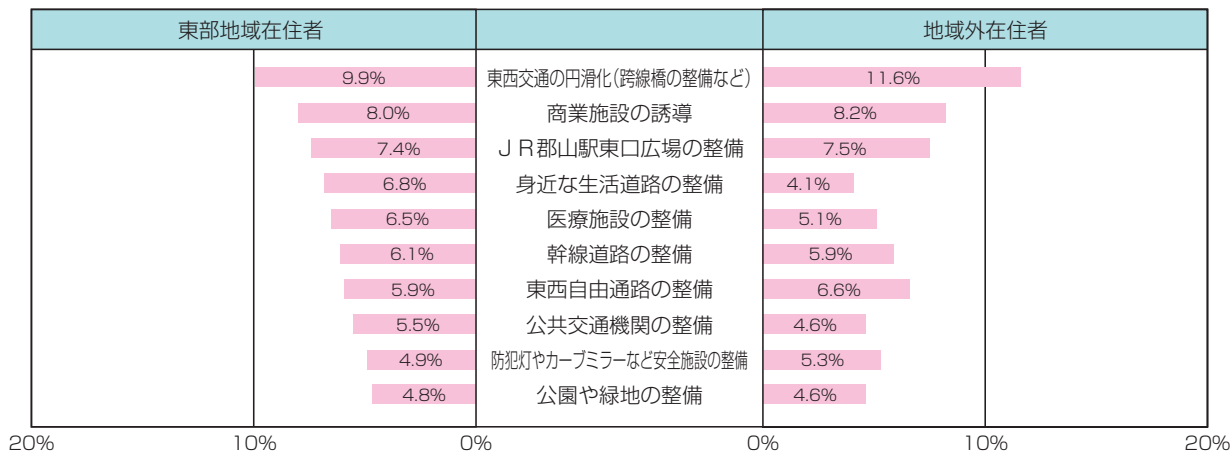
今後の土地利用においては、魅力と活力のある商業地づくりや、ゆとりある居住環境の向上などによる賑わいと安らぎの創出を目指す必要があります。



Q6 郡山駅東口周辺地域の地域活性化のために優先すべきこと ※全26項目中上位10項目

東部地域在住者の回答では、「東西交通の円滑化（跨線橋の整備など）」(9.9%)が最も多く、次に「商業施設の誘導」(8.0%)、「JR郡山駅東口広場の整備」(7.4%)の順となっています。地域外在住者も概ね同じ結果となっています。

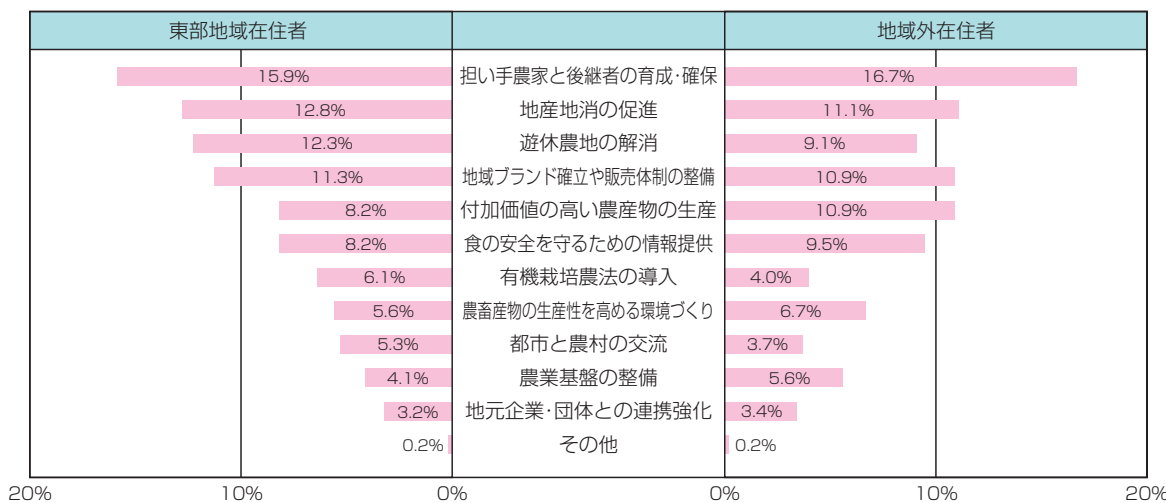
本地域の活性化を図るためには、郡山駅東西間の交通の円滑化（道路・橋りょう等）、駅東口広場や公共施設などといった都市基盤の整備、商業施設や医療施設の充実などを図ることが求められています。



Q7 東部地域の農林業の発展に大切だと思うこと

東部地域在住者の回答では、「担い手農家と後継者の育成・確保」(15.9%)が最も多く、次に「地産地消の促進」(12.8%)の順となっています。地域外在住者も概ね同じ結果となっています。

農業においては、担い手の育成や確保など、将来にわたり持続的に発展する農業の振興を図る必要があります。また、商工業や観光との連携による地産地消(※4)や販路拡大への取り組みが重要になります。

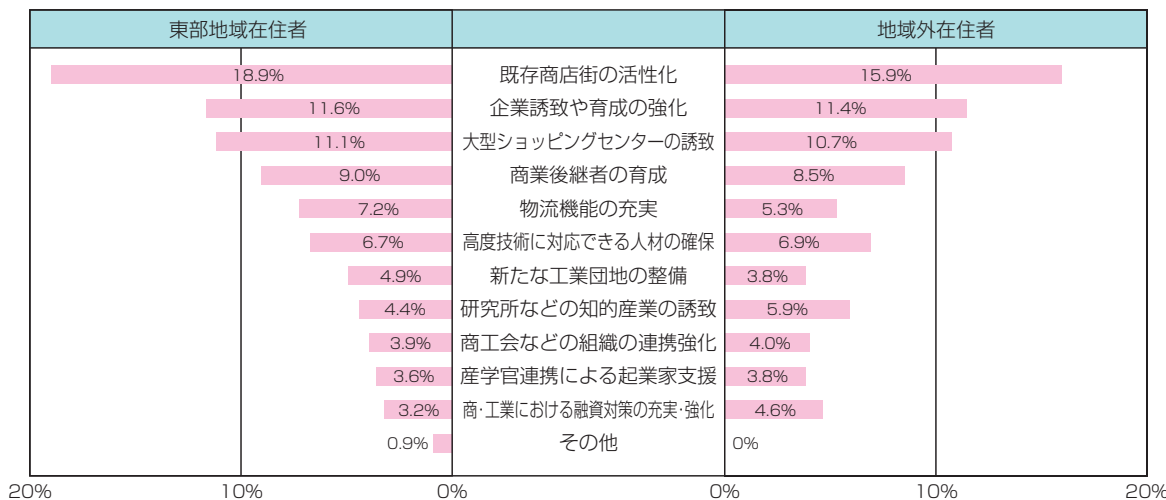


Q8 東部地域の商・工業の発展に大切だと思うこと

東部地域在住者の回答では、「既存商店街の活性化」(18.9%)が最も多く、次に「企業誘致や育成の強化」(11.6%)、「大型ショッピングセンターの誘致」(11.1%)の順となっています。地域外在住者も概ね同じ結果となっています。

商業においては、地域に密着した魅力ある商店街づくりを進めるとともに、賑わいをもたらす商業施設の充実を図る必要があります。

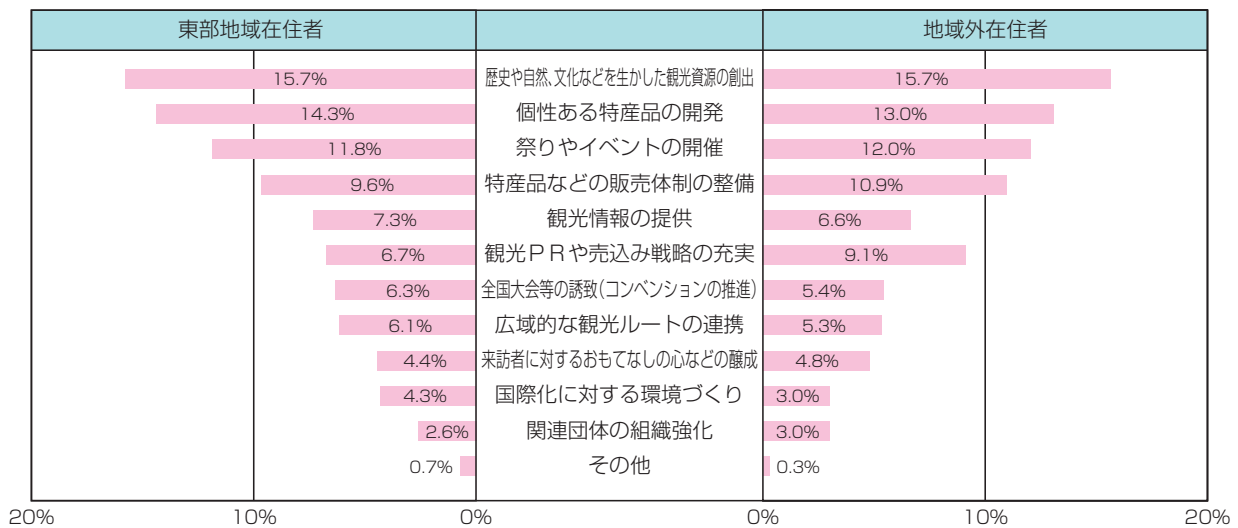
また、工業においては、企業の育成や人材の確保、さらには、戦略的な企業誘致を進める必要があります。



Q9 東部地域の観光の振興に大切だと思うこと

東部地域在住者の回答では、「歴史や自然、文化などを生かした観光資源の創出」(15.7%)が最も多く、次に「個性ある特産品の開発」(14.3%)などの順となっています。地域外在住者も概ね同じ結果となっています。

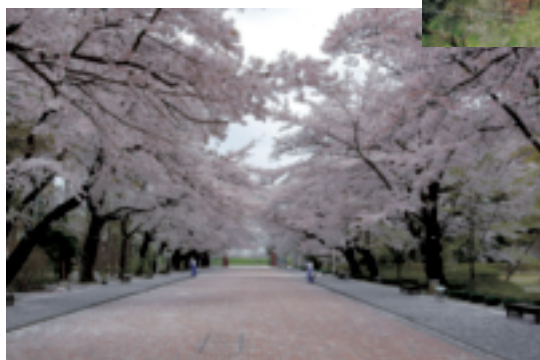
観光においては、本地域の持つ豊かな自然や伝統文化などといった地域資源を生かすとともに、東部地域らしい特産品の開発や販路拡大、受入れ体制の充実、周辺地域との連携強化による戦略的な広域観光ネットワークの構築を図る必要があります。



内出のサクラ (西田町)



忠七桜 (中田町)



日本大学工学部の桜 (田村町)